

スズテック

# 省エネ・熱事業に進出 18日、新事業説明会開く

## 農業以外の分野へ挑戦

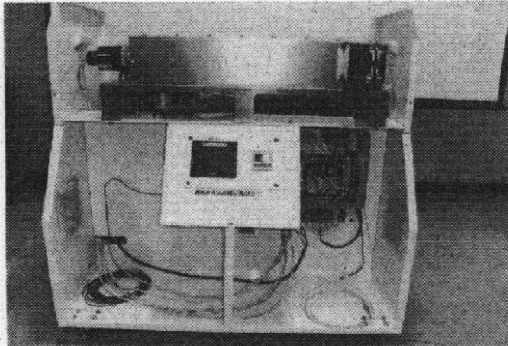


鈴木代表取締役

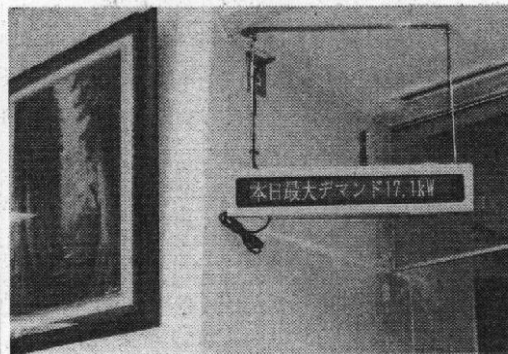
スズテックは18日、農業以外への本格的な初挑戦となる「2010年新事業説明会」を開催した。これは、今年4月に発足させた「環境営業部」で、農業用ハウスの暖房から医療・介護施設、ホテル・店舗まで広範囲の用途が見込める過熱水蒸気式暖房機とPLC電力モニター「エコワイズ」の2製品を販売し、新事業化を目指す。来シーズンから数億円の売上を予定。

スズテックの鈴木康夫代表取締役、栃木県宇都宮市平出工業団地44-3は、「春の農機メーカーとして創業65周年を経て、秋の取扱商品なら

びに年間を通しての商いの課題解決を図りたい」という課題を推進したいという課題を掲げて来たが、8月よりスタートをした55期で、革新的な2つの商品の事業化に取り組み、具体的な商品の説明と



過熱水蒸気式暖房機試作1号機



玄関入口のエコワイズによるテロップ

事業化計画は次の通り。まず、「過熱水蒸気式暖房機」だが、水をヒーターで沸騰させ、発生した水蒸気をシェルター内部で更に加熱し、高温でドライな水蒸気を作り出す。そして、同時に加熱された空気を混合され、ファンによって温風として送り出す暖房機器。平成22年度とちぎ未来チャレンジファンド助成事業の補助を受け、ハウス農業における暖房経費の大幅な削減を図ることを目的に、第一号機の製作を実現している。既に対象作物として、トマト、

メロン、ラベンダー、ニラなどの栽培で化石燃料の大幅削減を立証しているが、さらに多くの実証試験を商品性能等の高度化を図り、23年冬からの本格販売を実現する予定。1台当たりのメーカー希望小売価格は80万円前半を計画している。有効容量は、一般的なハウスの100坪見当に1台が必要となるとしている。

農業以外の多面的な展開を目指す。これまで過熱水蒸気で実用化された機器等としては、脱臭処理、食品残渣処理、調理器、有機性廃棄物処理、廃木材、竹の炭化、有害物質の分野、有害物質の抽出除去、半導体製品、機器の洗浄、食品容器の殺菌、乾燥機等がある。続いて、PLC電力モニター「エコワイズ」はアシナラブル栃木県宇都宮市南大通り2-2-13が開発・製造するシステムソフトで、連携して販売するもの。標準システムが50万円の同商品を自社で導入、活用して電力デマンド値を下げて、年間600万円のムダの削減に成功している。電力計のバリュアブル計、その他の動力盤や電灯盤の電力計をモニターングし、「電気の見える化」としてグラフやテロップでリアルタイムに表示する。また、デマンドの異常を各施設管理者の携帯電話にメールで知らせ、社員の意識向上につながっている。スズテックは、次代の高齢化、環境、エコのキーワードに到達した商品としての拡販を図る予定。営業的には、来年度の冬のシーズンから過熱水蒸気式暖房機の本格販売に乗り出し、「エコワイズ」は今・8月から発売した。